

北海道港湾空港建設協会

会報

令和3年1月

北のみなと

No.101

平成30年9月撮影（留萌開発建設部提供）



— 目 次 —

新春のご挨拶 (北海道港湾空港建設協会 会長 藤田 幸洋).....	1
------------------------------------	---

Report

日本港湾空港建設協会連合会 第37回通常総会開催	2
港関係団体及び当協会と北海道開発局との意見交換会	3
日本港湾空港建設協会連合会及び当協会と北海道開発局との意見交換会	6
港関係団体連絡会と北海道開発局担当者との意見交換会	10

受賞

令和2年度 春の叙勲 (旭日単光章)	11
令和2年度 春の褒章 (黄綬褒章)	12
令和2年度 国土交通省建設事業等関係者大臣表彰	13
令和2年度 「海の日」 海事関係功労者大臣表彰	14
令和2年度 漁港漁場関係事業 優良請負者表彰	14
令和2年度 北海道開発局 優良工事等表彰	15
令和2年度 北海道開発局 港湾空港関係功労者表彰	18
令和2年度 北海道水産林務部 水産土木工事等優秀業者表彰	19
令和2年度 各協会表彰	20
・(公社) 日本港湾協会 企画賞	
・(公社) 日本港湾協会 港湾功労者	
令和元年度 全建賞 (室蘭港築地地区岸壁 (西-9m) 改良事業)	23

各種記事

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」開催	24
令和2年度 根室港大規模地震・津波総合訓練が開催される	25
我が社の安全衛生管理 (白崎建設(株) 安全衛生委員会事務局 寺澤 賢幸)	26
私の趣味 (みらい建設工業(株) 北海道支店 支店長 荒木 厚史)	28

Topics

網走川川筋地区供用開始 (網走港湾事務所)	30
厚岸漁港湖南地区衛生管理対策施設群供用開始 (釧路港湾事務所)	31
遠別漁港船揚場クレーン式上架施設供用開始 (留萌港湾事務所)	32

Information

事務局だより・業界だより・広報委員会だより.....	33
----------------------------	----



遠別漁港の概要

◎遠別漁港の役割

遠別漁港は①日本海北部海域におけるホタテガイ養殖、小型定置網等の沿岸漁業の生産拠点、②道内外のホタテガイ種苗供給基地、③韓国向けホタテガイの輸出拠点、④周辺海域で操業する漁船の避難拠点として重要な役割を担っている第4種漁港です。

◎主な整備方針

- ①漂砂対策として、既設航路の増深と拡幅によるサンドポケットを整備し、漁船航行時の安全確保を図る。
- ②残土処理対策として、航路及び泊地から発生する浚渫土砂を漁港内で処分する残土処理護岸を整備するとともに、残土処理により発生する土地の一部を漁具洗浄用地として有効活用するために用地及び道路の整備。
- ③リフト式船揚場の老朽化や漁船大型化の対応として、上架施設を移設し、作業効率化と安全性を確保するために、護岸及び防風柵の整備。

新春のご挨拶

北海道港湾空港建設協会 会長
藤田 幸洋



令和3年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止への対応に明け暮れた1年となりました。

会員の皆様には、日本港湾空港建設協会連合会ほか関係団体が策定した「港湾空港建設事業の新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防ガイドライン」のほか、政府が策定する数多くの対処事項に対しての真摯な取り組みに感謝申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾空港整備の促進に寄与することを目的として事業を推進してまいりました。本年も、仮に新型コロナウイルス感染症が収束しない状況にあっても、感染拡大防止に対処しつつ当協会の設立目的に沿って積極的に事業を推進してまいります。

政府は、令和3年度予算の編成にあたり、激甚化する風水害や巨大地震等への対策、予防保全に向けた老朽化対策の加速等に対応した、防災・減災、国土強靱化など安全・安心の確保を柱として策定された「国民の命と暮らしを守る安心と希望のための総合経済対策」（令和2年12月8日閣議決定）に基づき、3か年緊急対策に引き続き、令和3年度から令和7年度までの5年間にわいて、時々の自然災害等の状況に即した機動的・弾力的な対応を行うとして、特に加速化・深化させるべき施策のために追加的に必要となる事業規模15兆円程度を目指して、初年度については、令和2年度第3次補正から措置するとしています。

また、国土交通省港湾局は、頻発化・激甚化する高潮・高波・暴風による被害や切迫する大規模地震・津波等に屈しない強靱な国土づくりを推進するため、中長期的な

視点に立った計画的な取組を行うとともに、港湾施設及び海岸保全施設の老朽化に対応するため、戦略的な維持管理の推進や、ハード・ソフトを総動員した防災・減災、国土強靱化を推進し、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、多くが運休となっているクルーズ船については、安心して楽しめる環境づくりを進めることで、インバウンドの再開を見据えた取組を推進し、クルーズ旅客等の観光需要を取り込み、地域の経済活性化を図るとしており、これらの港湾関係予算が確実に確保されることが、我が国の成長力を高め、持続的発展のために不可欠と考えております。

北海道における港湾、空港、漁港は、北海道が我が国最大の食糧基地であり、優良な農水産品等の国内外への供給物流拠点として、また、広域観光の基盤となる社会資本として極めて重要な役割を担っており、港湾、空港、漁港の整備及び老朽化施設を含む施設の機能強化が望まれています。

このため、仮に新型コロナウイルス感染症が収束しない状況にあっても、北海道が、活力があり安全で魅力のある地域となるために、港湾、空港、漁港の整備と機能強化が極めて重要であることを訴えてまいります。

港湾空港関係建設業界は、抱える働き方改革や現場の生産性向上、担い手の確保などの課題に取り組み、地域の安全・安心の守り手として期待される重要な使命を果たし、各地域の社会資本整備を通じて地域の発展に寄与するため、本年も会員の皆様のご理解とご協力をいただきながら事業に取り組んでまいります。

会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いしますとともに、新しい年が皆様にとりまして、健康で希望に満ちた幸多い年となりますことを心より祈念いたします。

日本港湾空港建設協会連合会 第37回通常総会を 書面開催

$$R_{H13}/H_0'$$

$$b/H_0'$$

日本港湾空港建設協会連合会は、令和2年5月12日に第37回通常総会の開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの蔓延により、書面により5月29日まで行いました。

また、6月2日に2年に1度の役員選挙があり、宮崎英樹前北海道港湾空港建設協会会長が退任され、藤田幸洋北海道港湾空港建設協会会長が新理事に専任されました。

なお、表彰状伝達式について今年度は見送り、令和3年度第38回通常総会に開催時の表彰式と同時に行う予定です。

令和2年度の事業計画は以下のとおりです。(日本港湾空港建設協会連合会ホームページより抜粋)

令和2年度 事業計画

1 会報の発行

港湾空港関係予算・技術開発等、港湾空港関係の諸情報並びに、会員の意見・要望等を掲載した会報を4回/年発行し、会員相互の情報交換を行う。

2 研修講習会等の開催

港湾空港建設事業の社会的地位の確立と、技術の開発向上を目的とした講習会および見学会を実施する。

講習会の開催は、春・秋の2回中堅技術者を対象に東地区、西地区において実施し、11月中旬に経営者及び幹部社員を対象に経営者セミナーを東京都において開催する。

また、「独占禁止法・コンプライアンス関係講習会」を(一社)日本埋立浚渫協会と共催で行う。

3 要望及び意見等の発信

①港湾空港関係予算及び港湾空港事業に関わる諸課題について、関係方面及び関係機関に対して要望又は意見交換を実施する。

②港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する要望や意見交換を、各地区連合会と共同して関係機関に対して実施する。

③都道府県協会が行う港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する関係機関との要望や意見交換を支援、共同して実施する。

4 調査研究

①港湾空港建設業の発展に関する調査研究及び資料の収集等を行う。

②地区連合会技術委員会の活動経費に対して補助を行う。

③契約・設計・積算に関する調査研究。

④労働・安全・税制に関する調査研究。

⑤建設行政に関わる調査研究。

5 港湾及び空港の整備・振興に関する広報・啓発活動

①港湾及び空港の整備・振興に関し、広く社会一般に理解を得るための広報・啓発活動を行う。

②港湾及び空港の整備・振興の必要性を広く国政の場に反映するため、関係国会議員等の理解を得るための活動を展開する。

③会員企業の技術力の向上、見聞を広めるため、パナマ運河の視察を行う。

港関係団体及び当協会と 北海道開発局の意見交換会

令和2年12月4日（金）ホテルポールスター札幌において、港関係団体と当協会の共催により、国土交通省北海道開発局と「令和2年度 港湾・空港・漁港事業に関わる意見交換会」を開催しました。

出席者及び意見交換の内容は以下のとおりです。



藤田会長



北海道開発局 魚住港湾空港部長



意見交換の様子

出席者

◎北海道開発局

港湾空港部長
港湾計画課長
港湾建設課長
空港・防災課長
農業水産部水産課長
港湾建設課長補佐
港湾建設課建設第2係長

魚住 聡
箕作 幸治
早川 哲也
麻山 健太郎
横山 純
先川 光弘
吉田 勝則

◎港関係団体

○北海道港湾空港建設協会
会長

藤田 幸洋
坂 昭弘

技術委員会 委員長

○（一社）北海道建設業協会

港湾・漁港部会長
副部会長

藤田 幸洋
百瀬 治

○（一社）全日本漁港建設協会

北海道支部長

西村 幸浩

○（一社）日本埋立浚渫協会

北海道支部長

小野寺 勇

技術委員長

古田 圭也

○（一社）日本海上起重技術協会

北海道支部長

宮崎 英樹

○全国浚渫業協会

北海道支部長

藤田 幸洋

○（一社）日本潜水協会

北海道支部長

堀松 誠

北海道港湾空港建設協会 要望事項

平素は、当協会の業務運営に関しまして格別のご指導ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾、空港、漁港整備の促進に寄与することを目的として事業を行ってきたところです。

北海道における港湾、空港、漁港は、北海道が我が国最大の食糧基地であり、優良な農水産品等の国内外への供給物流拠点として、また、広域観光の基盤となる社会資本として極めて重要な役割を担っております。

このため、コロナ禍の社会状況ではありますが、港湾、空港、漁港の整備及び老朽化施設を含む施設の機能強化は、北海道が、活力があり安全で魅力のある地域となるために極めて重要であります。

会員各企業は、建設投資が減少した状況の中で、地域の安全・安心の守り手として重要な使命を果たすため、一層の努力を重ね、各地域の社会資本整備を通じて地域の発展に寄与する役割を果たしてまいり所存であります。

会員各企業における懸案事項について、下記のとおり要望いたしますので格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

要望事項

1 令和3年度 港湾・空港・漁港関係予算の確保について

周囲を海に囲まれた北海道においては、国内外との物流の殆どを海上輸送に依存していますが、地域の基幹産業の競争力強化、農水産物の輸出力の強化、増加するクルーズ船の受け入れ機能の整備、離島の安定的生活の確保、港湾の防災・減災、国土強靱化を図るため、港湾、空港、漁港（漁場含む）は極めて重要な社会資本であり、

施設の整備及び機能強化を推進することが必要と考えております。また、北海道のインバウンド観光の振興に対応した機能の強化、国内外の航空ネットワークの強化を図るため、広域観光の基盤となる空港施設の更新・改良を推進することが必要と考えております。

会員各企業は、安定的・持続的な経営の下で社会資本整備を通じて地域の発展に貢献する役割を適切に担ってまいりたいと考えており、令和2年度で終了の予定となっております防災・減災・国土強靱化のための3カ年緊急措置の継続を含め、令和3年度の港湾、空港、漁港（漁場含む）関係予算の増額確保をお願いいたします。

また、冬期間における事業量の確保及び工事の平準化のため、令和2年度ゼロ国債予算を含む第3次補正予算の早期の編成と執行をお願いいたします。

2 港湾・空港・漁港 建設業の働き方改革の推進について

当協会も港湾・空港・漁港建設業の健全な発展のため、建設業における働き方改革の実現に向けて取り組みを推進してまいります。

つきましては、実施にあたって特に課題とされます、以下の2点についてご検討をお願いいたします。

(1) 適正な工期設定について

休日確保のためには、適正な工期の設定が最も効果的な方策の一つであり、実施設計段階における施工検討の強化やクリティカルパスを踏まえた精度の高い標準工程表作成への取り組みなど、積極的なご対応をお願いいたします。

(2) 週休二日を実現する工事発注について

港湾・空港・漁港工事において週休二日を実現するためには、発注者において気象・海象等現場条件を適切に考慮した工事仕様を作成した上で、受注者の実施意欲を引き出すことが求められます。

今後、休日を確保するための工事実施にあたっては、休日確保評価型試行工事の検証とその結果を適切に反映

した工事の発注とともに、追加費用の変更等による適切なご対応をお願いいたします。

3 港湾・空港・漁港 建設業の生産性の向上について

建設業の生産性の向上は、週休二日等の働き方改革の達成、担い手の確保・育成のためにも強力に推進すべき事項であり、現場技術者の負担軽減のため、徹底した現場業務の効率化を進める必要があります。

技術者が現場で実際に“見る”、“触れる”、“聴く”ことで本来の現場業務が行え、その結果、構造物の品質の向上、工事現場の安全性の確保が一層進むものと考えられます。現場技術者をデスクから解放するため、計画段階からのプレキャスト化の採用や試行工事の実施、ICT技術の開発・活用への支援などに積極的なご対応をお願いいたします。

4 港湾・空港・漁港工事における入札・契約制度の改善について

地域の暮らしと経済を支える大切なインフラ整備において、期待される機能を発揮できる品質を確保するため、発注者、受注者の双方が適切に連携しその責務を果たしていくことが必要と考えております。

つきましては、入札・契約制度について、特に課題とされます以下の2点のご検討をお願いいたします。

(1) 適切な設計変更について

工事の設計変更につきまして、実態に即した設計変更の配慮がなされてきているところですが、設計変更の協議に時間を要するケースなどが見受けられますので、さらなる適切な設計変更及び設計変更手続きのご検討をお願いいたします。

(2) 見積活用方式の拡大について

平成28年12月より運用されている見積活用方式により、現場実態と積算内容に乖離が見られる場合などに効果を

得ているところですが、さらなる、標準積算による工事費と実態工事費に大きく乖離している工種における「見積活用方式」の拡大をお願いいたします。

5 新型コロナウイルス感染症への対応について

新型コロナウイルス感染拡大防止は、これまでに経験のない対応であり、今後とも国からの的確な情報提供と防止対策に対する適切なご支援をお願いいたします。特に、遠隔化、ICT化の導入など業界全体で進めている働き方改革、生産性向上策及び現場における3密対策が新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に極めて効果的であり、これら技術の導入についても最大限のご支援をお願いいたします。

日本港湾空港建設協会連合会及び 当協会と北海道開発局の意見交換会

令和2年12月3日（木）ホテルポールスター札幌において、日本港湾空港建設協会連合会と当協会の共催により、国土交通省北海道開発局と意見交換会を開催しました。

出席者及び意見交換の内容は以下のとおりです。



意見交換の様子

出席者

◎北海道開発局

港湾空港部長
港湾計画課長
港湾建設課長
空港・防災課長
農業水産部水産課長
港湾建設課長補佐
港湾建設課建設第2係長

魚住 聡
箕作 幸治
早川 哲也
麻山 健太郎
横山 純
先川 光弘
吉田 勝則



林田日港連会長



北海道開発局 魚住港湾空港部長

◎日本港湾空港建設協会連合会

会長
専務理事
技術委員長
技術ワーキング委員会委員長
技術ワーキング委員会
労働・安全・税制部会長

林田 博
津田 修一
大滝 雅宣
戸嶋 真人
水口 倫太郎

◎北海道港湾空港建設協会

会長
副会長
副会長
副会長
技術委員会委員長
技術委員会副委員長

藤田 幸洋
小野寺 勇
西村 幸浩
吉本 貴昭
坂 昭弘
梅沢 信敏

要望事項

平素より日港連の活動に深いご理解と温かいご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

当連合会は、「港湾空港建設技術の開発及び向上」と「港湾空港建設業の健全なる発展及び社会的地位の向上」を目標に掲げ、港湾空港整備を担う建設業者が加入する全国の都道府県協会を結集して1984年（昭和59年）に設立された団体です。

この間、日港連の会員各社は一貫して我が国の経済、産業を支える港湾・空港インフラの整備を担い、また、災害時には復旧・復興に携わることにより建設業の立場から我が国の経済社会の発展に寄与してまいりました。

現在、我が国は人口減少・少子高齢化など経済社会の

大きな変革期を迎えています。加えて、今年はじめから新型コロナウイルスという未知の感染症が世界的に蔓延し、人や物の移動、人々の生活様式に変容を求められるなど、この国の将来のかたちに大きな影響を与えています。このような状況にあって、公共事業を担う建設産業は社会経済の安定のため継続的な活動が必要です。将来にわたり経済社会の発展に寄与し続けるため、担い手の確保・育成、生産性の向上が急務であり、これを推し進めるため会員各社は週休二日の確保をはじめとする働き方改革に積極的に取り組んでいます。

一方で、日港連の会員企業が経営の基盤としている港湾空港整備に関して、中長期計画などの将来の整備見通しは必ずしも明確ではなく、港湾空港整備に軸足を置いた建設業として今後も存続していけるか大きな不安を抱えております。

全国に所在する日港連の会員企業は、働き方改革等、現在の大きな変革を成し遂げ、将来においても地域社会の安全・安心、発展に貢献してまいりたいと考えております。

つきましては、私どもの懸案事項につきまして、下記のとおり要望しますので格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

1. 地域の安全・安心を支える港湾空港建設業の体制の確保

我が国の経済発展を支えるためには、港湾空港の継続的な整備が必要です。また、益々激化する自然災害に対し、安全・安心な国民の暮らしを実現するためにも災害対応力のある港湾空港整備が重要です。

これら整備を進めるためには、海上における施設整備を確実に担える技術力と災害時など緊急事態においても活動できる機動力のある地域の建設業の存在が大切です。

日港連が実施した会員企業に対するアンケート調査によると、港湾空港工事を担う地域企業の4割程度は、将来の港湾空港工事の受注が減少するのではないかと考えています。この理由として、港湾空港工事の発注件数・発注量が限られていること、継続的な発注が少ないことなどから港湾空港工事への参加意欲が弱まっていること

が考えられます。また、工事を受注したとしても、港湾空港建設業の根幹である技術者の確保・育成や作業船の保有・維持に対応できる安定的な収益となっていないため、持続的な企業活動に対し厳しい状況となっていると考えられます。

このため、着実な港湾空港整備を進める上において、港湾空港関係の地域建設業が将来にわたって安定的に活動を継続できる環境の整備を要望します。

- ・魅力ある港湾空港プロジェクトの創出と港湾空港整備に関わる中長期計画などの将来の整備見通しの公表
- ・適正な利潤を確保できる港湾空港工事の設定と継続的な事業の実施
- ・地域の意欲ある企業が事業参加することができる入札・契約制度の構築
- ・将来の地域の港湾空港建設業の体制のあり方を考えるための研究会の設置

2. 港湾空港建設業の働き方改革の推進

長時間労働の是正のため、会員各社は様々な取り組みを行っております。この結果、アンケート調査によると週休日の増加等休日確保について年々改善が進む一方で、残業時間の削減については大きく進んでいない状況にあります。

2024年度から建設業に適用される時間外労働の上限規制（原則月45時間かつ年360時間）に対して残された時間は少なく、従来の枠組みにとらわれない大胆な発想で働き方改革を推進することが必要となります。受注者の取り組みに加え、発注者の理解と積極的な対応をお願いします。

(1) 適正な工期設定

工事契約後の速やかな工程提示に加え、今年度から品質確保調整会議により工程に係わる協議が行われることになっていますが、アンケート調査によると、工程の提示がない工事が1割以上、協議が行われなかったケースが約4割存在しています。

休日確保のためには、適正な工期の設定が最も効果的

な方策の一つであり、適正な工期設定のための積極的な対応を要望します。

- ・契約後速やかな工程表の提示と工程協議の徹底
- ・実施設計段階における施工検討の強化など精度の高い標準工程表作成への取り組み

(2) 週休二日を実現する工事発注

港湾工事において週休二日を実現するためには、発注者において気象・海象等現場条件を適切に考慮した工事仕様を作成した上で、受注者の実施意欲を引き出すことが求められます。アンケート調査によると、昨年度実施した休日確保評価型工事において加点等の評価を受けた工事の4割近いケースで週休二日（4週8休を含めると9割）を実現しています。他方、週休二日等休日確保を達成するため、人員の追加や高能率な機材の使用など受注者の負担となっているケースも少なくありません。

このため、今後の休日を確保するための工事の実施にあたっては、追加費用の変更等より適切な対応をお願いします。

- ・休日確保評価型試行工事の検証とその結果を適切に反映した工事の発注
（特に、休日を確保するために追加した人件費や施工費等の実態把握）

(3) 担い手の確保・育成

アンケート調査によると港湾空港工事の継続的な受注のためには、技術者の確保が最大の課題の一つとなっており、地域の建設業にとって担い手の確保は深刻な問題です。このため、ICT導入や働き方改革で大きく変革しつつある現在の建設現場を“見せる”こと、“体験させる”ことなど、将来の建設業の魅力を積極的に発信することにより、担い手の確保につなげていく必要があると考えます。また、地域企業が新規採用など積極的な取り組みを行うためには、将来の整備見通しが明らかになっていることが大きな動機づけとなります。

担い手の確保・育成を支援できる積極的な取り組みをお願いします。

- ・現場見学やインターンシップの取り組みに対する支援策（試行工事等）の実施

- ・港湾空港整備に関わる中長期計画など将来の整備見通しの公表（再掲）

3. 港湾空港建設業の生産性の向上

生産性の向上は、週休二日等働き方改革の達成、担い手の確保・育成のため強力に推進すべきです。特に、現場技術者の負担軽減のため、徹底した現場業務の効率化を進める必要があります。技術者が現場で実際に“見る”、“触れる”、“聴く”ことで本来の現場業務が行え、その結果、構造物の品質の向上、工事現場の安全性の確保が一層進むものと考えられます。現場技術者をデスクから解放する積極的な対応をお願いします。

(1) 徹底的な業務の効率化

現場業務の効率化において、工事書類の簡素化・削減は、最も効果の大きい取組みの一つです。アンケート調査に回答があった工事において、紙あるいは一部紙資料による工事検査が依然として4割以上で行われており、また、成果物の納品についても15%が紙資料の提出を求められています。紙資料の使用に関しては、従来からの“慣れ”の問題の他、現行システムの操作性や遅い通信環境の問題が指摘されています。

受発注者双方において一層の意識改革を進めるとともに、通信環境も含め利用し易く機能性が高い電子資料・検査方法を要望します。

- ・電子検査、電子納品の完全実施に向けて現行システムの問題点把握とシステム改良の実施

(2) ICT活用による生産性向上

港湾工事の生産性向上においてICT活用は有効ですが、アンケート調査では、大手企業に比べて中小企業のICT活用の取り組みが進んでいない状況が示されました。港湾工事において取り組まれているICT施工は、費用対効果の面で規模の大きな現場に限られ、現状のままでは中小規模の地域建設業への普及が進み難いと考えられます。

生産性向上に加え、担い手の確保を進めるためにも現場の魅力向上が重要であり、港湾工事における今後一層

のICT導入をお願いします。特に、ICT活用のすそ野を広げる観点から、中小規模の地域企業への展開について発注者の積極的な対応を要望します。

- ・中小規模工事におけるICT活用方策（施工技術、現場管理技術）検討のための研究会の開催
- ・中小規模工事向けICT活用モデル工事（ICT導入費用等の支援）の実施

4. 港湾空港工事における入札・契約制度の改善

地域の暮らしと経済にとって大切なインフラ整備において、要求される機能をしっかり発揮できる品質の公共工事を進めるためには、受発注者の双方が対等な立場のもと適切に連携しつつ各々の責務を果たしていくことが必要です。そのうえで、働き方改革、生産性の向上、担い手確保・育成等、大きな変革に確実に対応できるよう入札・契約制度の改善が求められます。

(1) 適切な設計変更

設計変更はほぼすべての工事で実施されています。アンケート調査では8割以上のケースにおいて追加調査等発注者が実施する内容が適正なものとなっている一方、設計変更協議に時間を要するケースが2割弱、指示書等に概算金額が明示されていないケースが4割以上あるなど、受注者が適正ではないと考えている案件が相当数あります。

非効率な設計変更協議が続くことが長時間労働の要因の一部にもなっており、適切な設計変更をお願いします。

- ・変更協議の滞りを防ぎ円滑かつ迅速な変更が行える仕組みの構築
(例えば、発注者組織内で変更協議の情報を共有（見える化）し、組織全体で進捗管理を実施)
- ・契約変更事務ガイドラインの内容の充実とその徹底

(2) 地域企業の意欲を引き出す入札方式

工事発注量の減少などにより、技術力を有している企業、あるいは、地域の実情に精通している企業であっても工事実績がないため、入札の参加機会に恵まれない

ケースがあります。

地域における安定的な施工力の確保、災害等緊急時における即応力を維持するためには、健全な地域企業の存在が不可欠であり、港湾空港関係の地域企業を維持・育成できる入札方式の採用をお願いします。

- ・工事実績の柔軟な評価、災害対応等地域貢献度による評価など地域企業の参加意欲を引き出す多様な入札方式の積極的な活用

(3) 入札事務手続きの改善

入札事務手続きの際の添付書類の削減は進んできていますが、申請データ量が容量を超えるケースが昨年度において3割程度発生している状況にあります。添付書類の更なる削減と現行の容量（3MB）の早急な拡大をお願いします。

(4) 低入札価格調査基準の引き上げ

一昨年度、設定範囲の改定が行われましたが、公共工事の更なる品質確保、地域建設業の健全な活動を維持するため、引き続き調査基準を引き上げるとともに、公共調達制度も含め港湾管理者等へ広く浸透させることを要望します。

5. 新型コロナウイルス感染症への対応

公共工事は社会の安定の維持の観点から継続が求められる事業として位置づけられ、港湾空港建設関係団体は共同して感染拡大防止のガイドラインを作成し、会員各企業は本ガイドラインに従って確実な事業実施を進めています。

新型コロナウイルス感染拡大防止は、これまでに経験のない対応であり、今後とも国からの的確な情報提供と防止対策に対する適切な支援を要望します。特に、遠隔化、ICT化の導入など現在業界全体で進めている働き方改革、生産性向上策が新型コロナウイルス感染拡大防止対策（3密の回避）にも極めて効果的であり、これら技術の導入についても最大限の支援をお願いします。

港関係団体連絡会と 北海道開発局担当者の 意見交換会

令和2年11月26日（木）ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、港関係団体連絡会（岡崎光信会長）は、北海道開発局と令和2年度港湾・空港・漁港工事に関する意見交換会を開催しました。

北海道開発局から港湾空港部早川哲也港湾建設課長、麻山健太郎空港・防災課長、農業水産部横山 純水産課長など5名が出席、港関係団体連絡会から岡崎光信会長、山田悦郎副会長、古田圭也副会長など港関係7団体から12名が出席して「入札・契約に関する要望」「設計・施工に関する要望」について意見交換会を行いました。

主な要望内容は以下のとおりです。



北海道開発局の方々



意見交換の様子

主 な 要 望 内 容

入札・契約に関する要望

1. 工事の発注時期
2. 配置予定技術者
 - 2-1 配置予定技術者の配置開始時期の緩和について
 - 2-2 配置予定技術者育成の試行工事について

設計・施工に関する要望

1. 基礎捨石・均し・石かご
2. コンクリート（防寒養生について）
3. ブロック
4. 仮設材（敷鉄板等）
5. 海域区域の供用係数・荒天リスク精算型
6. 休日作業・週休2日制
7. 設計変更・契約変更（地域外からの労働者確保について）
8. その他

令和2年春の叙勲受章者 拓殖工業(株) 武田孝会長が 旭日単光章を受章

令和2年春の叙勲受章者が発表され、拓殖工業㈱の武田孝会長が国土交通行政事務功労で旭日単光章を受章されました。
武田孝会長は、長年、広尾町商工会の会長として商工会組織の基盤確立や拡充に尽力されたほか、地域振興、インフラ整備に建設業として十勝・道東をはじめ、物流拠点である海の玄関、重要港湾十勝港や帯広広尾高規格高速道路の整備促進、海岸保全事業の促進にも取り組み、さらに重要港湾十勝港港湾管理者広尾町の企業として十勝港の企業誘致活動をはじめ地域の発展に貢献されました。



武田 孝 氏

生年月 昭和7年7月

学 歴 昭和21年4月 樺太庁泊居町立国民学校高等科（終戦のため中退）
昭和24年3月 北海道東静内町立新制中学校 卒業

職 歴 昭和28年8月 武田産業（土木工事請負業）
昭和36年10月 拓殖礦業株式会社設立 代表取締役
昭和48年4月 拓殖工業株式会社に社名変更 代表取締役
平成7年6月 同社 代表取締役会長 現在に至る

団体歴 昭和60年4月～ 広尾町建設協会 会長
昭和60年4月～ 広尾町地域開発推進協議会 会長
平成8年4月～ 北海道重要港湾十勝港企業誘致促進期成会 副会長
平成8年5月～平成18年5月 広尾町商工会 会長

賞 罰 平成17年11月 北海道知事表彰（産業貢献賞）
平成18年5月 北海道建設業協会表彰（特別功労者表彰）
平成19年7月 国土交通省北海道開発局長表彰（港湾整備事業功績）
平成28年5月 日本港湾空港建設協会連合会長表彰（港湾建設事業功績）
平成30年1月 紺綬褒章

令和2年春の叙勲受章者 白鳥建設工業(株)堀松宏朗会長が 黄綬褒章を受章

令和2年春の叙勲受章者が発表され、白鳥建設工業(株)の堀松宏朗会長が業務精励功労（港湾建設業）により黄綬褒章を受章されました。

堀松会長は、長年にわたり港湾建設業に従事する傍ら、社団法人日本潜水土協会の役員を歴任され、建設業の振興、発展、後継者の育成に尽力し社会基盤の整備に大きく貢献したことが高く評価されました。



堀松 宏朗 氏

生年月 昭和19年4月

学 歴 昭和43年3月 東洋大学土木工学科 卒業

職 歴

昭和43年4月	堀松建設工業株式会社	入社
昭和53年6月	同社	取締役
昭和54年2月	同社	取締役工事部次長
昭和57年1月	同社	取締役工事部部长
昭和61年1月	同社	常務取締役東京支店長
平成12年5月	同社	専務取締役東京支店長
平成15年1月	白鳥建設工業株式会社	顧問
平成15年5月	同社	代表取締役
平成24年5月	同社	代表取締役会長
令和2年6月	同社	顧問 現在に至る

団体歴

平成23年5月	一般社団法人日本潜水土協会	理事
平成24年6月	同法人	北海道支部支部長
令和2年6月	同法人	北海道支部 顧問 現在に至る

賞 罰

平成22年7月	国土交通省北海道開発局港湾空港関係功労者表彰 受賞
平成29年7月	国土交通省海事関係功労者大臣表彰 受賞

令和2年 国土交通省建設事業関係功労者 国土交通大臣表彰

国土交通省は令和2年7月10日、令和2年国土交通省建設事業関係功労者及び優良団体を表彰しました。

道内からは建設事業関係功労者として、当協会から岩田地崎建設株式会社 代表取締役社長 岩田圭剛氏が受賞されました。

岩田圭剛氏は（一社）北海道建設業協会会長をはじめ、経済界も含めた多くの要職を兼任され本道建設業の発展に貢献されました。



岩田 圭剛 氏

生年月 昭和28年4月

職 歴

昭和52年4月 大木建設株式会社 入社
昭和55年1月 岩田建設株式会社 入社 取締役
昭和58年3月 岩田建設株式会社 常務取締役
平成10年6月 岩田建設株式会社 代表取締役社長
平成16年4月 株式会社 I C ホールディングス 代表取締役
平成19年4月 岩田地崎建設株式会社 代表取締役社長

団体歴

平成21年5月 (社)札幌建設業協会 会長
平成21年5月 (社)北海道建設業協会 会長
平成21年5月 (社)全国建設業協会 理事
平成25年4月 (一社)日本建設業連合会 理事
平成28年11月 札幌商工会議所 会頭
平成28年11月 (一社)北海道商工会議所連合会 会頭
平成28年11月 日本商工会議所 常議員
平成28年11月 日本商工会議所 副会頭

令和2年度 国土交通省「海の日」海事関係功労者大臣表彰

国土交通省の令和2年度「海の日」海事関係功労者大臣表彰の受賞者として道内関係者では、港湾関係で㈱濱谷建設が栄誉に輝きました。

㈱濱谷建設は、2001年から19年間にわたって釧路港港内において清掃奉仕活動を行い、釧路港港内の環境美化保全、利用者の環境意識の向上に貢献していることが高く評価されました。

表彰式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から伝達式に変更され、7月27日釧路地方合同庁舎において釧路開発建設部 石川部長より㈱濱谷建設 代表取締役 濱谷社長に伝達されました。



㈱濱谷建設
代表取締役社長
濱谷 美津男 氏
生年月 昭和36年 9 月

略 歴

昭和60年 4 月	村角建設㈱	入社
昭和63年 5 月	㈱濱谷建設	入社
平成 3 年 6 月	同社	常務取締役
平成19年 1 月	同社	代表取締役副社長
平成24年12月	同社	代表取締役社長
現在に至る		

令和2年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰受賞者

水産庁の令和2年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰として㈱高木組（本社：函館市 中田 俊一郎社長）及び葵建設㈱（本社：釧路市 山中 博社長）が水産庁長官表彰を受賞しました。

本表彰は漁港漁場関係事業への理解を深めるとともに、漁港漁場建設技術の向上を図り、漁港漁場関係事業の円滑な実施に資することを目的として、他の模範に足る功績を残した請負者を表彰するものです。

例年、水産庁において表彰式が行われますが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から㈱高木組は6月3日函館開発建設部 樺澤部長、葵建設㈱は6月8日釧路開発建設部 石川部長から表彰状が伝達されました。



株式会社 高木組
中田 俊一郎 氏
代表取締役社長

会社概要

本社所在地	函館市
創業	明治35年
設立	昭和17年
資本金	9,900万円



葵 建設株式会社
山中 博 氏
代表取締役社長

会社概要

本社所在地	釧路市
創業	昭和26年
設立	昭和26年
資本金	9,980万円

2020年度 北海道開発局 優良工事等の表彰



北海道開発局では、2020年度優良工事等表彰について、2019年度に完成した工事1701件の中から局長表彰工事37件（35社2JV）が選定され、工事を施工した企業とその工事に携わった技術者が受賞しました。毎年7月に行われていた局長表彰式は、新型コロナウイルス感染症対策のため見送りとなりましたが、受賞企業から表彰式を望む声が寄せられ9月11日、札幌第1合同庁舎で局長表彰式が挙行されました。

港湾・空港・漁港部門における局長表彰は、①㈱高木組が施工した「砂原漁港外1港北外護岸改良工事」②岩倉建設㈱が施工した「苫小牧港西港区岸壁南（-10m）B部改良その他工事」③濱谷・山田・真壁経常JVが施工した「釧路港新西防波堤建設工事」の3件（2社1JV）が受賞しました。

開発建設部長表彰は、函館（㈱森川組）、小樽（㈱吉本組）、室蘭（北興工業㈱、あおみ・道南総合・濱谷経常JV）、釧路（葵建設㈱、三井住友建設㈱）、網走（㈱藤共工業）、留萌（堀松建設工業㈱）稚内（安田建設㈱）が受賞しました。

— 港湾・空港・漁港部門における受賞工事 — 【北海道開発局長表彰】

○工事名：砂原漁港外1港北外護岸改良工事

発注者：函館開発建設部

施工者：㈱高木組

技術者：



三上 雅徳氏



〔表彰理由〕

本工事は、消波工の水中部を含む出来形管理にICT技術であるUAVやマルチビームを活用し、精度の高い施工管理と省力化を実現した。ブロック製作では、自動開閉式の生コン打設用バケットの活用により、労働災害発生リスクの低減を図り、技術員の増員等で週休2日も達成し若手技術者登用、インターンシップの受け入れなど建設業のイメージアップにも大きく貢献した。

○工事名：苫小牧港西港区岸壁南（－10m）
B部改良その他工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：岩倉建設㈱

技術者：



西亦 恵介 氏



〔表彰理由〕

本施工箇所は、安全や環境面での配慮のほか、鋼管矢板打設や水中土砂掘削等の高い施工精度が求められ、施工中には想定外の埋設物が確認されるなど困難な工事であったが、新技術を積極的に活用した交通事故防止対策や環境保全対策に努めるとともに、鋼管矢板法線管理のための各種の創意工夫による施工精度向上に取り組んだ。また、インターンシップ受入やイベント支援等の地域貢献にも努めた。

○工事名：釧路港新西防波堤建設工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：濱谷・山田・真壁経常JV

技術者：



伊藤 隆 氏
濱谷建設㈱



風間 勝 氏
㈱山田組



福嶋 勝則 氏
真壁建設㈱



〔表彰理由〕

本工事は、ICT技術を活用した施工管理を実施し、施工日数の短縮と出来形品質の向上を図った。安全関連では、労災事故防止のため安全衛生教育の実施や、パトロールを強化し無事故で工事を完成させた。また、油回収資機材を現場に設置し、油流出の緊急時に迅速に対応できるよう備えるなど、他の工事の模範となった。

【各開発建設部長表彰】

○工事名：函館空港滑走路端安全区域用地造成 その他工事

発注者：函館開発建設部

施工者：(株)森川組

技術者：長田 潤 氏

○工事名：石狩湾新港北防波堤その他工事

発注者：小樽開発建設部

施工者：(株)吉本組

技術者：及川 俊博 氏

○工事名：室蘭港祝津地区岸壁－11m改良その他工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：北興工業(株)

技術者：小野寺 敏 氏

○工事名：三石漁港島防波堤改良その他工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：あおみ・道南総合・濱谷経常JV

技術者：梅田 正人 氏（あおみ建設）

渡邊 英樹 氏（道南総合土建）

佐藤 智哉 氏（濱谷建設）

○工事名：厚岸漁港－4.5m岸壁改良その他工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：葵建設(株)

技術者：矢野 正人 氏

○工事名：歯舞漁港（歯舞地区）人工地盤基礎 建設その他工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：三井住友建設(株)

技術者：志田 淳 氏

○工事名：元稲府漁港北防波堤その他工事

発注者：網走開発建設部

施工者：藤共工業(株)

技術者：新谷 元人 氏

○工事名：遠別漁港建設工事

発注者：留萌開発建設部

施工者：堀松建設工業(株)

技術者：八田 克利 氏

○工事名：枝幸港物揚場（－3.5m）改良工事

発注者：稚内開発建設部

施工者：安田建設(株)

技術者：田村 勇治 氏

令和2年度 北海道開発局 港湾空港関係功労者表彰

北海道開発局は7月13日、令和2年度の「港湾空港関係功労者表彰」及び「一般協力者の奉仕活動表彰」の受賞者の発表を行いました。

本表彰は、港湾空港整備事業の推進を目的として、港湾空港の業務等に関し、功労があった方々を対象に実施しています。

今年度の功労者表彰は、株式会社ササキ 代表取締役 佐々木正明氏が受賞されました。

なお、例年、札幌第1合同庁舎で実施していた表彰式は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、7月20日に稚内地方合同庁舎において表彰状・感謝状の伝達式が行われました。

また、同じく功労者表彰には、上岡雄司前岩内町長が受賞し、海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰には、「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」が受賞されました。



株式会社ササキ
代表取締役
佐々木 正明 氏
生年月 昭和26年9月

略 歴

昭和49年7月	猿払産業株式会社	入社
昭和53年6月	株式会社 ササキ	取締役
平成6年11月	株式会社 ササキ	代表取締役
		現在に至る

北海道水産林務部 令和2年度 水産土木工事等優秀業者表彰

北海道水産林務部は、令和2年度水産土木工事等優秀業者感謝状の伝達を12月15日以降、各振興局管内で実施しました。同部所管の令和元年度（2019年度）完成工事等において、その功績がきわめて顕著で、水産林務行政の推進に貢献した工事部門22社（実数20社）、委託部門6社に知事感謝状が贈呈されました。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、例年札幌で開催されている贈呈式を取り止め、各振興局管内で受賞者に伝達する方式としました。表彰された優秀業者のうち、水産土木部門では当協会員、勇建設㈱、酒井建設㈱、㈱森川組、㈱中田組、萩原建設工業㈱、白崎建設㈱、小針土建㈱の7社が受賞しました。

[水産土木部門受賞]

勇建設㈱（札幌市） 代表取締役社長 坂 昭弘
 ㈱森川組（函館市） 代表取締役社長 森川 基嗣
 萩原建設工業㈱（帯広市）代表取締役社長 萩原 一利
 小針土建㈱（中標津町）代表取締役社長 小針 武志

酒井建設㈱（新ひだか町） 代表取締役 酒井 芳宏
 ㈱中田組（稚内市） 代表取締役社長 中田 伸也
 白崎建設㈱（釧路市） 代表取締役社長 白崎 義章



（写真提供：石狩振興局）



（写真提供：十勝総合振興局）

令和2年度 (公社)日本港湾協会 企画賞

「石狩湾新港の軌跡」の発行により（一社）北海道建設業協会 栗田 悟副会長が令和2年度（公社）日本港湾協会企画賞を受賞しました。

本表彰は港湾に関する映像、著作、イベント等において、その企画表現が特に優れたもので、港湾の啓蒙、整備促進への貢献等が顕著であった個人又は団体を対象に顕彰されます。

栗田副会長は運輸省採用後、長年、北海道開発局に勤務され、石狩湾新港はじめ、北海道内の港湾整備事業に携わられました。

同書は第1章「石狩市民百年の夢を見る（田岡克介市長インタビュー）」、第2章「草創期昭和の歩み」、第3章「平成の記憶」の3章構成により石狩湾新港の歩みをたどっています。

当初は日本港湾協会総会において表彰式が行われる予定でしたが新型コロナウイルス感染症対策のため、7月3日、推薦者である北海道開発局 魚住 聡港湾空港部長から表彰状が授与されました。



栗田 悟 氏

生年月 昭和29年12月

職 歴

昭和54年4月 運輸省港湾局採用
平成22年5月 国土交通省北海道開発局港湾空港部長
平成25年7月 国土交通省中国地方整備局長
平成26年11月 一般社団法人北海道建設業協会顧問
平成27年5月 一般社団法人北海道建設業協会副会長
現在に至る

令和2年度 (公社)日本港湾協会 港湾功労者表彰

北海道港湾協会推薦（順不同）

永年に亘り港湾に関する職務に従事し、功績が特に顕著な者、又は港湾の管理運営振興、計画設計、施工の各部門に關して研究、実施等に特に顕著な成果をあげ、他の模範となるべき者を対象に表彰している令和2年度（公社）日本港湾協会 港湾功労者に道内から9名の方が受賞されました。

表彰式は長崎県佐世保市において行われる予定でしたが新型コロナウイルス感染症対策のため中止になりました。受賞されました皆様には心からお慶び申し上げます。



伊勢 常男 氏
生年月 昭和25年1月
釧路水先区水先人会会長

略 歴

平成20年 釧路水先区水先人に水先人として入会
平成27年 釧路水先区水先人会会長
現在に至る



麓 敏也 氏
生年月 昭和33年11月
奥尻町議会議長

略 歴

昭和53年 麓 電気商会入社
平成11年 奥尻町議会議員
平成21年 奥尻町議会議長
現在に至る



根本 任宏 氏
生年月 昭和33年9月
(一社) 寒地港湾空港技術研究センター 企画部長

略 歴

昭和57年 北海道開発局
平成30年 港湾空港部港湾行政課長
令和元年 (一社) 寒地港湾空港技術研究センター
企画部長
現在に至る



鈴木 一行 氏
生年月 昭和34年3月
機械開発北旺(株) 技術顧問

略 歴

昭和53年 北海道開発局
平成29年 留萌開発建設部 次長
令和元年 機械開発北旺(株) 技術顧問
現在に至る



小玉 茂義 氏

生年月 昭和34年2月

東亜建設工業(株)北海道支店 技術部長

略 歴

昭和57年 北海道開発局
平成29年 釧路開発建設部 技術管理官
令和元年 東亜建設工業(株)北海道支店 技術部長
現在に至る



上野 強 氏

生年月 昭和33年12月

釧石工業株式会社 技術顧問

略 歴

昭和52年 北海道開発局
平成30年 函館開発建設部 江差港湾事務所長
令和元年 釧石工業株式会社 技術顧問
現在に至る



神代 順平 氏

生年月 昭和29年6月

(株)クマシロシステム設計 代表取締役

略 歴

昭和50年 クマシロシステム設計
平成12年 代表取締役
現在に至る



佐藤 典之 氏

生年月 昭和34年2月

北日本港湾コンサルタント(株) 専任調査役

略 歴

昭和59年 東亜建設工業(株)
平成11年 北日本港湾コンサルタント(株)
平成28年 北日本港湾コンサルタント(株) 調査解析部調査役
平成31年 北日本港湾コンサルタント(株) 調査解析部専任調査役
現在に至る



安部 勲 氏

生年月 昭和28年12月

(一財)港湾空港総合技術センター 北海道支部 主任テクニカル・エキスパート

略 歴

昭和53年 北海道機械開発(株)
平成20年 (一財)港湾空港総合技術センター 北海道支部 テクニカル・エキスパート
平成31年 (一財)港湾空港総合技術センター 北海道支部 主任テクニカル・エキスパート
現在に至る

令和元年度 全建賞 受賞 室蘭港築地地区岸壁(西-9m) 改良事業

室蘭開発建設部 室蘭港湾事務所

「室蘭港築地地区岸壁(西-9m)改良事業」が、2020年度全建賞に選ばれました。本事業は、狭隘な前面水域と背後上屋を供用しながらの施工という制約があるなか「控えアンカー鋼管矢板構造」を採用し、最小限の法線前出しと周辺施設への影響なく事業を完了したことが評価され、室蘭港湾事務所は、2014年度の「追直漁港の沖合人口島の整備」以来の受賞となりました。

今回の北海道の港湾で初めて採用した構造では、鋼管矢板1本毎にアンカーが必要なため、その間隔が1.35mと近接することから、①隣接アンカーの挿入角度をずらす、②アンカー施工は1本飛ばしで削孔、といった品質確保の工夫も行いました。

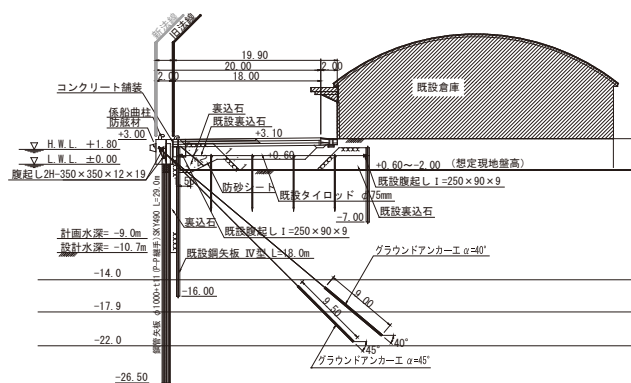
本施設のある西3号ふ頭は、鋼材や化学肥料等を扱う施設として、市内企業に利用され続けていますが、利用者に対して最小限の影響で、老朽化施設の更新を行うことができました。



施工箇所



施工状況



標準断面図



事業完了後の利用状況(化学肥料の荷下ろし)

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」の開催

(公社)日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会、港湾海岸防災協議会の港湾関係5団体は、「令和2年度経済と暮らしを支える港づくり全国大会」を10月22日(木)東京・平河町の砂防会館別館で新型コロナウイルス感染症対策のため招待者を大幅に縮小し、ソーシャルディスタンスを保って開催されました。

開会にあたり主催者を代表して、宗岡正二日本港湾協会会長、林文子全国市長会港湾都市協議会会長(横浜市長)、中原八一日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長)が挨拶を述べられました。

来賓代表として赤羽国土交通大臣が祝辞を述べられ、竹下亘港湾海岸防災協議会会長(自民党港湾議員連盟会長)、大口義徳公明党海事・港湾振興議員懇話会副会長

の挨拶がありました。そのあと、高田昌行国土交通省港湾局長から港湾行政の報告として、令和3年度予算要求の重点施策を説明され、地域の代表2名の方から港湾整備・振興に関する意見発表を行いました。続いて、「港湾整備・振興に関する要望書」を満場一致で決議し、宗岡正二日本港湾協会会長から赤羽国土交通大臣に要望書が手渡されました。

要 望 項 目

1. 国民の安全・安心確保
2. サプライチェーンの強靱化・国際競争力強化による日本経済の成長
3. リスク分散・多核連携型の国づくりを実現するための地域の活性化



赤羽国土交通大臣祝辞



会場の様子

令和2年度 根室市総合防災訓練

根室市防災会議が主催する「根室市総合防災訓練」が「防災の日」の9月1日に根室港花咲地区東埠頭マイナス10m岸壁施設で実施されました。

根室市防災会議は関係行政機関をはじめ、電力、電話、報道機関等、計19機関から構成されています。今回の防災訓練は協力機関である北海道港湾空港建設協会、NPO法人北海道みなとの文化振興機構(防災エキスパート)等、13機関も協力し、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、13時から15時すぎまで行われました。

根室市は国内有数の地震多発地帯であり、これまで幾多の大地震に見舞われ、市民生活や地域経済活動に大きな打撃を受けた歴史や、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を教訓として、全国的にも今までの防災対策を見直すことが求められています。

今回の訓練は今後、起こりうる地震・津波災害を想定し、災害発生時における関係機関の迅速な初動体制の構

築、また各種の2次災害に対処するため、根室市地域防災計画に基づく通信・避難・消火・救助等の訓練の実施、各関係機関との緊密な連携の強化や、総合的な防災活動の効率的な実施並びに広く防災思想の普及を図るために実施されました。

地象想定は13時15分、根室半島南東沖において、推定マグニチュード8を超える巨大地震が発生し、根室市で震度6弱の強い揺れと大津波警報を想定し、災害対策本部構築訓練・緊急出港訓練・港湾巡視被災状況調査訓練等、35項目の訓練が実施されました。

北海道港湾空港建設協会会員の釧根地区5社から防災エキスパート5名と開発局職員1名が岸壁被災状況調査訓練に参加し、根室港湾事務所第1工務課長の調査開始の号令により東埠頭マイナス10m岸壁のエプロン舗装の陥没状況をレベル測量班3名とテープ測量班3名の2班で行い、被災状況の調査報告を行い終了しました。



根室市総合防災訓練開会式



岸壁被災状況調査訓練

我が社の安全衛生管理

白崎建設株式会社 安全衛生委員会事務局 寺澤 賢幸



1. はじめに



弊社は1885年（明治18年）の創業で、白崎建設株式会社として法人化してから70年の節目を迎えました。

寄稿依頼のあった「我が社の安全衛生管理」については、平成16年11月発刊の「北のみなと」54号に一度掲載されていますが、既に16年の歳月が経っており、安全衛生管理に対する取り組み方も見直しを行いながら現在に至っておりますので、改めて当社の安全衛生管理について紹介させていただきます。



2. 安全衛生基本方針



弊社は、「災害ゼロ」という目的だけでなく、「危険ゼロ」の職場作りを最優先に、工事関係者全員の協力と参加のもと、危険有害要因の除去及び低減活動を図り、交通災害並びに墜落・転落、土砂崩壊、クレーン・重機災害の三大災害の絶滅に取り組んでおります。また、従業員の疾病や心の健康は、従業員とその家庭の幸福な生活、活気のある職場のために重要な課題であることを認識し、精神疾患のみでなく、広く職場のコミュニケーションの活性化など、心の健康づくりにも併せて取り組んでいます。

【基本方針】

「人命尊重」の基本理念から、職場における労働災害を取り除き、労働者とその家族に健康で明るい、快適な職場環境を提供することを目的とする。

【管理目標】

事故・災害ゼロの達成

【安全スローガン】

「築く安全、職場の誇り。」



3. 安全衛生管理活動



①安全大会

毎年4月と9月に弊社全役員・従業員が参加する社内安全大会を、5月にはグループ会社並びに協力会社が参加する白崎建設グループ安全大会を開催しています。弊社の安全衛生方針の確認や警察署や安全コンサルタントを講師に迎え安全意識の高揚を図っています。また、グループ社員が安全宣言を行い1年の無事故・無災害を誓い合います。



②安全衛生パトロール

毎月1度、社長をはじめ役員及び安全担当者によるパトロールを実施し、労働諸法規から逸脱していないか、作業者が安全、快適に働いているかを点検表に基づきチェックを行っています。結果については作業所で確認し、協力会社へ水平展開し、事故防止に努めています。

また、全国安全週間や全国労働衛生週間、着工期や繁忙期などは役員と総務部で別途パトロールを行い、危険を排除し安心・安全な職場づくりを目指しています。



安全施工サイクル

③衛生活動

定期及び雇い入れ時の健康診断後、精密検査が必要な従業員への再検査の確認・案内を衛生管理者が行っています。また、メンタルヘルスに対する「心の健康づ

くり推進計画」を策定し、ストレスチェックの実施や、外部が主催する講習会へ参加して相談窓口の参考にしています。なお、新型コロナウイルスに対しては国や北海道の指針を参考に予防対策を講じています。

④交通安全

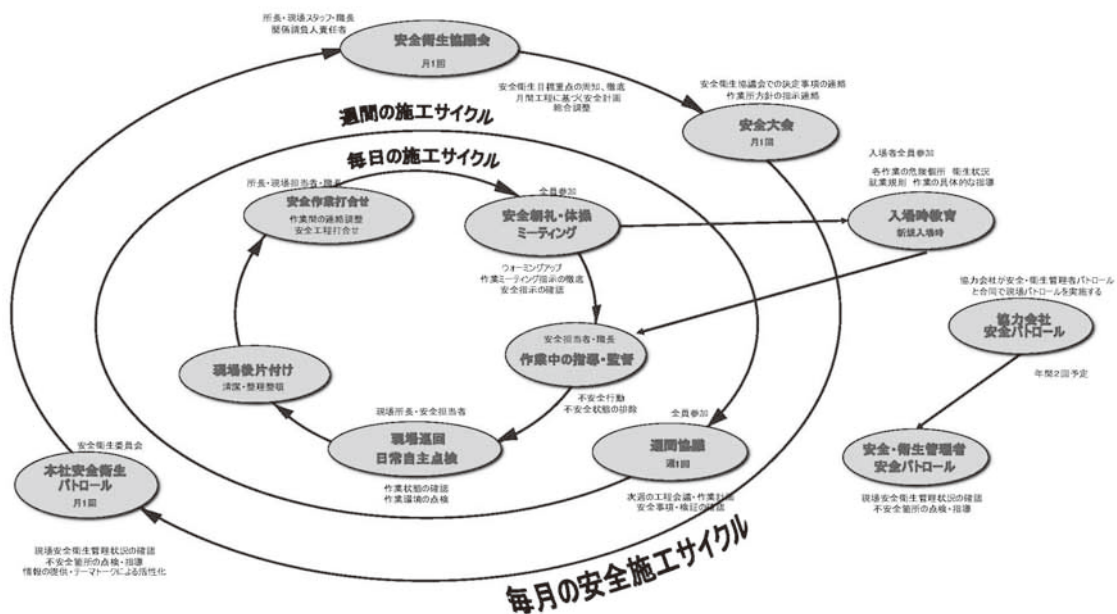
弊社には安全運転委員会が設けられており、年度安全運転管理方針を立案することになっています。令和2年度の行事としては、セーフティラリー北海道の参加、交通ヒヤリマップを活用した危険予知訓練、車内清掃の励行、デイルイト運動の励行を行っています。また、社用車全てにドライブレコーダーを設置して安全運転意識の高揚、事故発生時の対応に役立てています。

なお、当地域はエゾシカの生息数が多く、過去には鹿との衝突事故も発生していることから、衝突事故防止対策も交通安全の大きなテーマとなっています。

⑤作業所安全活動

当社安全施工サイクルにより、毎日の実施項目、週間の実施項目、月間の実施事項を明確にし、全工事関係者で安全施工を目指しています。

特に安全朝礼時の安全指示の確認についてはリスクアセスメントを取り入れたRKYを工種毎に行い、危険個



※現場に掲示する際は、毎日の施工サイクルの各項目に実施時間を記載すること。



白崎建設株式会社

所の洗い出しから対策まで念入りに行っています。

また、元請けとして各現場の着工前に作業毎で予想される危険有害要因を特定し、そのリスクに対して講じる安全衛生対策についても協力会社へ周知させることで作業手順書の作成に反映しています。



4. むすびに



土木工事は工種が多く、特に港湾工事では使用機械・協力会社が異なるため、施工時期や環境で安全対策も変わってきます。今は携帯電話等を使用し詳細な打合せや、社内イントラネットでの会社と現場の相互確認も出来る時代ですが、やはり危険有害要因は直接現場に出向かなければ確認出来ない部分も多くあります。現場で働く方々が「元気に出勤、元気に帰宅」出来るよう、今後も本社・現場・協力会社が一体となり、労働災害・事故の未然防止と、安全で快適な職場づくりに努めてまいります。

私の趣味

みらい建設工業(株)北海道支店 支店長
荒木 厚史

私は小さい頃から球技が好きで比較的得意でもありました。小学校からは野球とサッカーで迷った末、サッカー部に入部し部活に没頭していました。私の出身は釧路市であり、釧路の大会で優勝してサッカーの全道大会にも出場したこともあり、強かったこともあって放課後、休日もサッカーの練習漬けでした。趣味的な事と言えばサッカーぐらいでしょう。余談ですが、中学のころは全国をサッカー指導のため廻っていた、まだ若かった(30代前半?)「セルジオ越後さん」が釧路にも来られ、リフティングや足技などを教わったのを覚えています。当時、この人はなぜ日本人なのに「セルジオ」なのかとも思っていました。のちにブラジル人2世でプロサッカー選手だったこと、解説者などでTVにも出演されていることを知りびっくりしたのを記憶しております。

小学、中学はこのようにサッカーに明け暮れていましたが、高校からはサッカーをやめ、その後の大学時代も広く浅くいろいろ経験しましたが、没頭する趣味といえるものはなかったように思います。比較的音楽を聴くのが好きで自分のステレオをいじったり、レコードをよく買って、コンサートに行ったりすることが多かったかなと思います。特に洋楽を聴くのが好きでした。

会社にはいったからは千葉、東京で仕事をしていますが、ますます自分の時間が無くなり、休みとなればパチンコ等に行き、暇つぶしとしては楽しかったのですが、趣味ではない感じでした。

そうこうしているうち、家族ができ、子供も二人おりまして家族旅行をする事が多くなりました。趣

味といえるかわかりませんが、連休があればその都度温泉旅行や海外旅行、キャンプなど家族と共に出かけるのが楽しく、年に5～6回は行っていたのだと思います。仕事にもかかわらず今度の連休はどこに泊まって何をするかを考えていたりもしました。今は私も単身赴任で千葉県にいる家族と離れ、子供も就職していることからその機会は少なくなっており残念です。

さて、本題の現在の趣味ですが、今は単身で札幌勤務ということもあり休日に何をしているかと言えばゴルフ練習等に明け暮れております。以前、ゴルフは特に興味がなく、年に2～3回程度ラウンドする程度でした。実際にゴルフを始めたのは入社してすぐでしたので年月としては30年以上の経験はあることにはなりますが、回数的にはかなり少ないです。始めた当初の数回のラウンドでは多たきを連続(確かラウンドスコア150～160くらい)し、「このスポーツは球を使うが得意な球技ではない、自分にはゴルフセンスがない」と感じ、ろくに練習することも無くいつも本番ぶっつけでラウンドしておりました。当然上達するわけも好きになることもありませんでした。

以前の勤務地は主に関東で、よく千葉県のゴルフ場へ行っていましたが、比較的自宅から遠い所にあるため朝早く出発し、ハーフの後昼食休憩(札幌では昼休憩があまり無いようですが)午後ハーフを行いその後風呂、帰りは渋滞等もあり帰宅は夕方で結構くたくたになって帰ってきていました。

スコア的にもラウンド110～130位が常で、更に調子が悪いときなどは途中でもうやめてクラブハウ

スに戻って早く風呂に入りたいと思ったこともあり
ました。

そこで今年札幌に赴任し、ゴルフの誘いを受けて
久しぶりにラウンドしたところ、たまたまだったの
ですが、自分のベストスコア102でまわることがあ
りました。以前と違い楽しくプレーできたのです。
それはなぜかという、かつてはアイアンでショッ
トした後の振動が必ず手に響いていたのですが、こ
のときはなぜか芯に当たる確率が高く、手に変な振
動が少なかったためで「アイアンショットの打感は、
本来はこれなのか」とわかった瞬間でもありました。
また、芯のショットでめったに無いですがグリーン
にパーオンした時のあの感覚、なかなかいい感じで
した。その感覚
は忘れられず、
それからとい
うものゴルフ
練習場へ通い、
アイアンが芯
で打てるよう
今は楽しく練
習しています。



ゴルフ練習場にて



モニター画面

最近わかったのですが、今のゴルフ練習場は昔の
ただ球を打つだけではないところもあり、今、主に
利用している練習場は打席毎に飛距離、ヘッドス
ピード等がショット毎に計測表示され、モニターに
は自分のスウィング映像も自動録画され毎回再生さ

れます。比較の対象としてプロのスウィング映像も
隣に表示されるため、自分のスウィングフォームの
ヘッドアップ等のおかしな部分もすぐ把握でき、と
てもためになり面白いです。(実際把握できてもし
すぐスウィングは直りませんが)

また、そうなってくると今度は道具も欲しくなり
ます。以前は興味が無かったこともあって使用して
いたクラブは20年以上前のモデルで、中には一部さ
びが発生しているモノもあったくらいです。興味があ
るとモノを揃えたいくなるのが世の常ですが、自分
も同様にゴルフショップに行くことも増え、いろい
ろなグッズに目移りしていくなか、とりあえず新し
めの中古アイアン、ワイヤー紐ダイヤル式のゴルフ
シューズ、ウォッチタイプの距離計を先日購入して
しまいました。せっかく興味がもてたのでそのうち
試し打ちでもして自分に合ったドライバーを購入し
ようかと少し調子に乗っています。

そうはいつでも急にスコアが良くなる訳はなく、
先日ある大会では未だブービー賞を獲得してしま
いました。ですが、今までとの違いは、その大会の帰
りにゴルフ練習場へ寄って再度クラブを振ったこと
でした。去年まででは考えられないことで自分でも
びっくりです。

ゴルフ練習以外では少しの時間があればYOU
TUBE等のゴルフレッスンを見たりもしています。
ライ角、シャフト素材、ヘッド素材の違いがどう影
響するのか、腰の使い方等今まで考えもしなかった
ことが少しずつわかってきて、「ゴルフはなかなか
奥が深いな」と上から目線ですが、そう思う今日こ
の頃です。

趣味としては微妙ですが、小学生時代からのサッ
カー、音楽鑑賞、家族旅行等を経て今現在はゴルフ
(練習) がそう言えるかなと思います。年を越して
コロナの影響が収まれば、ゴルフの機会も増える
と思いますし、楽しんで行っている練習の成果も確認
したくこれからもゴルフ(練習)を続け、趣味とい
える位にしていきたいなと思っております。

網走港川筋地区物揚場 (-3m)の完成

北海道開発局 網走開発建設部

網走開発建設部では、平成29年度から物揚場（-3.0m）の整備を進めてきましたが、令和2年10月に完成となりました。

当施設は、網走川河口部の左岸に位置し、今から約77年前の昭和17～19年に旧海軍省にて築造された施設です。老朽化が進行していたほか、遊漁船等を収容する施設も不足していたことから、物揚場の改良により係留施設の安全性確保と、遊漁船等の受け入れに対応すること

としました。

物揚場背後には史跡モヨロ貝塚があるほか、隣接する緑地は、港湾管理者（網走市）が整備を行っております。

右岸側の物揚場（改良整備済）と合わせ、みなとオアシスエリアとなっており、中核施設の「みなと観光交流センター（道の駅：流水街道網走）」を含めた観光交流空間が形成されており、近接する中心市街地と連携した活性化と賑わいの創出が期待されています。



航空写真（丸囲みが物揚場（-3m））



完成した物揚場（-3m）と網走川右岸側



背後の木々付近が史跡モヨロ貝塚

厚岸漁港衛生管理施設 供用開始

北海道開発局 釧路開発建設部

釧路開発建設部は、直轄特定漁港漁場整備事業（厚岸地区）に基づき、厚岸漁港に平成27年7月から衛生管理施設の整備を進めて令和2年7月に完成させ、同8月から供用を開始しています。

当漁港での水産物の陸揚作業は、古くから湖北地区の岸壁で行われていましたが、衛生面や狭隘化が課題となっていたことから、陸揚機能を湖南地区第2埠頭に移転させ、屋根付き岸壁（延長403m、幅35m）や清浄海水導入施設を整備し、衛生管理対策の推進を図りました。

施設の特徴としては、岸壁で陸揚されたサンマは専用のタンクに入れ、屋根下で降雨、鳥糞、直射日光の影響を受けずに出荷まで仮置が可能となり、屋根背後に待機

するトラックまで直線的な動線で積み込むことができます。また、防波堤外側の港外から取水した海水は、清浄海水（ろ過、殺菌、冷却）、電解殺菌水（次亜塩素酸水）、原水の3種類に分類し、それぞれ用途に合わせて、鮮度保持、漁具洗浄、蓄養、活魚水槽、岸壁・荷捌所洗浄に利用できます。なお、盛漁期には漁業者をはじめ多数の漁業関係者が集まることから、駐車場の不足を解消するための人工地盤を整備しました。

これにより厚岸の水産物の付加価値を向上させ、国民への安全・安心な安定供給が図られることが期待されます。



屋根付き岸壁全景



サンマ陸揚状況



サンマ仮置状況

遠別漁港船揚場 クレーン式上架施設の完成

北海道開発局 留萌開発建設部

遠別漁港では、昭和63年に遠別町で整備したリフト式上架施設が、老朽化の進行に加え、近年の漁船大型化へ対応していないため、漁船修理等の作業に支障を来していました。さらに、旧船揚場がある第2港区を利用しているホタテ養殖漁業と上下架作業の動線が輻輳し、漁船同士の接触の恐れがあるなど危険な状況となっていました。

そこで、第1港区へ漁船上架機能を移設し、第1港区を準備・休憩エリア、第2港区を衛生管理エリアとしてゾーニングし、衛生管理の徹底を図るとともに、併せて老朽化した上架施設を漁船大型化に対応した規格で更新

することにより、上架機能の向上を図ることとしました。

上架施設については、遠別町が事業主体となり、既存のリフト式からクレーン式へ上架方式を変更して整備することとし、平成30年度から留萌開発建設部が船揚場整備、遠別町が上架施設整備を一体的に進め、令和2年1月に施設が完成、6月に供用開始となりました。

船揚場の完成により、地元漁船の修理・点検作業の効率化に加え、遠別漁港周辺を操業する漁船の故障等による緊急利用も可能となり、避難拠点としての機能強化も期待されています。



船揚場完成時



船揚場完成時



クレーン上架状況



シップキャリアへの吊り下ろし状況



シップキャリアによる移動状況

◎事務局だより◎

昨年来の新型コロナ感染の影響から各種行事が中止、延期等になったことから「北のみなと」も令和2年9月の発行を取りやめました。

このため、今号は2号分を掲載しており、頁数も通常より多くなっています。

医療はもとより、経済への影響も甚大であり、一日も早く、コロナ禍が終息することを祈るばかりです。

◎業界だより◎

◎会員代表者の交代

●機械開発北旺株式会社

代表取締役会長 百瀬 治

代表取締役社長 敷土 勉

◎支店移転のお知らせ

●東亜建設工業(株)北海道支店

〒060-0003

札幌市中央区北3条西1丁目1番地11サンメモリア2階

◎広報委員会だより◎

令和3年1月現在の広報委員は以下のとおりです。

委員長	小野寺 勇	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆司	東洋建設(株)
(部会長)	宮部 秀一	(株)菅原組
(副部会長)	大前 豊	五洋建設(株)
	石島 隆司	近藤工業(株)
	上野 強	釧石工業(株)
	小玉 茂義	東亜建設工業(株)
	高田 稔年	あおみ建設(株)
	千葉 不二夫	勇 建設(株)
	森 信幸	(株)不動テトラ
	今林 弘	菱中建設(株)
	東 志郎	萩原建設工業(株)

※広報委員会からのお願い

1. 新造船（機械・装置含む）の紹介
2. 注目される工事の着工、完成
3. 工事現場の紹介
4. 各地域の技術研究会・イメージアップ事業等の紹介をお待ちしております。



ホタテ漁船 係留状況



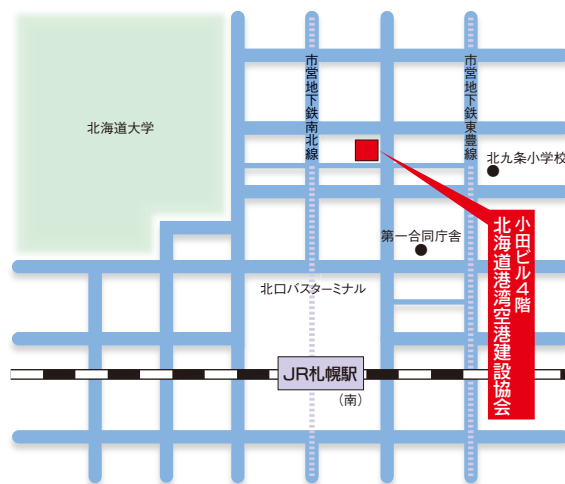
ホタテ貝陸揚げ作業



ホタテ貝漁網

〔写真提供：留萌開発建設部〕

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.101

発行年月 令和3年1月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 藤田 幸洋
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL(011)707-4731 FAX(011)707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email:hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 宮部 秀一
 印刷 (株)須田製版